

部局名	教育委員会	所属名	教育総務課	所属長名	綿貫 正	電 話	481-0300
-----	-------	-----	-------	------	------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	3383		事務事業名称	総務管理事業					短縮コード	経常	3383	臨時	3564
予算区分	会計	01	一般会計	款	10	教育費	項	01	教育総務費	目	02	事務局費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他			根拠法令等		八千代市教育委員会行政組織規則（昭和42年11月1日教委規則第6号） 八千代市奨学金規則（昭和38年9月1日教委規則（昭和38年9月1日教委規則第1号）							
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
規則制定時より，教育委員会の事務管理として開始 教育施策の調整及び教育行政の総括的事務を行う													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系	5本の柱（章）	02	人間尊重都市をめざして						
連絡調整等にグループウェアの活用が定着してきた。提出書類が増加してきている。決裁等もIT上で行えるようになると書類とIT上の二重提出という事務の煩雑化がなくなると思う。会議室の利用者は固定化しつつあるので，地域のコミュニティーの場としての特色が出てきている。					大項目（節）	01	学校教育						
					中 項 目	02	義務教育						
					小項目（施策）	01	教育環境の整備						
					細 項 目	02	施設・設備の整備						
				実施計画の計画事業									
計画事業の位置付けの有無			☐	計画事業期間		～			計画事業費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	教育施策の調整及び教育行政の総括 教育委員会職員の人事 本市幼稚園・小中学校の園児，児童生徒及び教育行政に携わる団体 八千代市教育委員会の所管する教育機関の職員 本市に住所があり，経済的理由により高校修学が困難な生徒で，奨学金の申請者							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成18年度に実際に行ったこと： 教育施策の調整及び教育行政の総括 教育委員会職員の人事 教育委員会バス「わかば号」の運行。 奨学金申請書等を選考委員会に諮り，奨学金の支給の決定と奨学金の支給							
	※平成19年度に計画していること： 18年度と同様 奨学金制度のついては，規則の見直しを行う。							
意図 （何を狙っているのか）	教育委員会の業務をスムーズに行う 修学の経済的負担の軽減により教育の機会均等を図る							
結果 （どんな結果に結びつけるのか）	快適な教育環境の整備							
区 分				単位	17年度	18年度		19年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	施策調整・調査物・人事案件	件	483	500	511	554	
	指標2	市内幼稚園・小中学校の園児，児童生徒数	人	15,241	15,300	15,241	15,580	
	指標3	奨学金給付者数	人	36	30	27	30	
活動指標	指標1	連絡調整等の数	件	480	500	756	799	
	指標2	「わかば号」を活用した件数と人数	人	9,103	9,200	10,695	10,700	
	指標3	奨学金支給者数	人	36	30	27	30	
成果指標	指標1	調査物の取りまとめ回数／依頼取りまとめ調査物等の数	%	100	100	100	100	
	指標2	「わかば号」運行件数／「やちよ号」運行可能件数	%	100	100	100	100	
	指標3	奨学金支給者で卒業者数／奨学金支給者	%	91.7	100	100	100	
上位成果指標	指標1	学校施設・設備が充実していると感じている市民の割合	%			26.2		
	指標2							
	指標3							

コード	3383	事務事業名称	総務管理事業				所属名	教育総務課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			職員の労働力による事業であるため、職員同士の連携をとり、プロセス等の改善を図っていく。 奨学金については、規則等を見直していく。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止								
☐ 休止								
☒ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			職員の労働力による事業であるため、職員同士の連携をとり、プロセス等の改善を図っていく。 奨学金については、規則等を見直していく。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☐		
			不 変	☐	☒	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
奨学金については、支給条件の緩和、手続きの簡素化、支給金額の適正化、貸付事業にした場合の検討等規則の見直しが必要									

所属長コメント	教育委員会全体の総務・調整的事业であるため、教育委員会全体の業務内容を把握し対応することが必要である。 なお、高等学校奨学金のについては、社会経済状況の変化等の中で事業の目的等を再検討する必要がある。								
評価調整委員会意見	☐ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり、現状のまま継続とする。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止									
☐ 休止									
☒ 現状のまま継続									